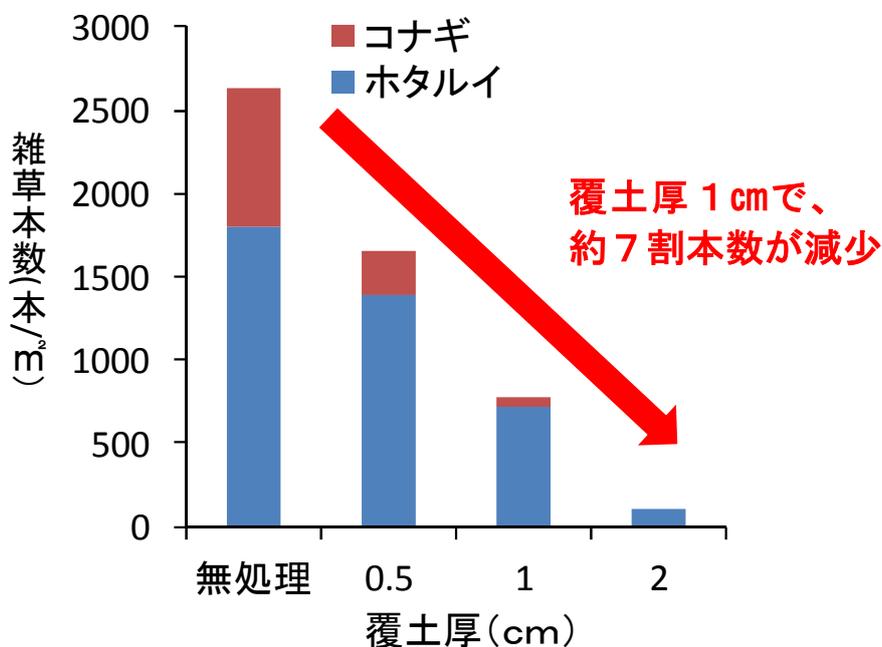


水田における覆土による 新しい除草方法(土寄せ除草)の検証

本県の生産者が、水田ではこれまでになかった除草方法「土寄せ除草」を考案しました。「土寄せ除草」による雑草への影響を検証した結果、この方法を採用した歩行型除草機を1回施工すると、ノビエ、ホタルイ、コナギの合計雑草本数は、無処理に対して約5-6割減少します。2回施工すると、ノビエ、ホタルイ、コナギの雑草本数は、無処理に対して約7-7.5割減少し、全雑草風乾重は5-6割減少します。



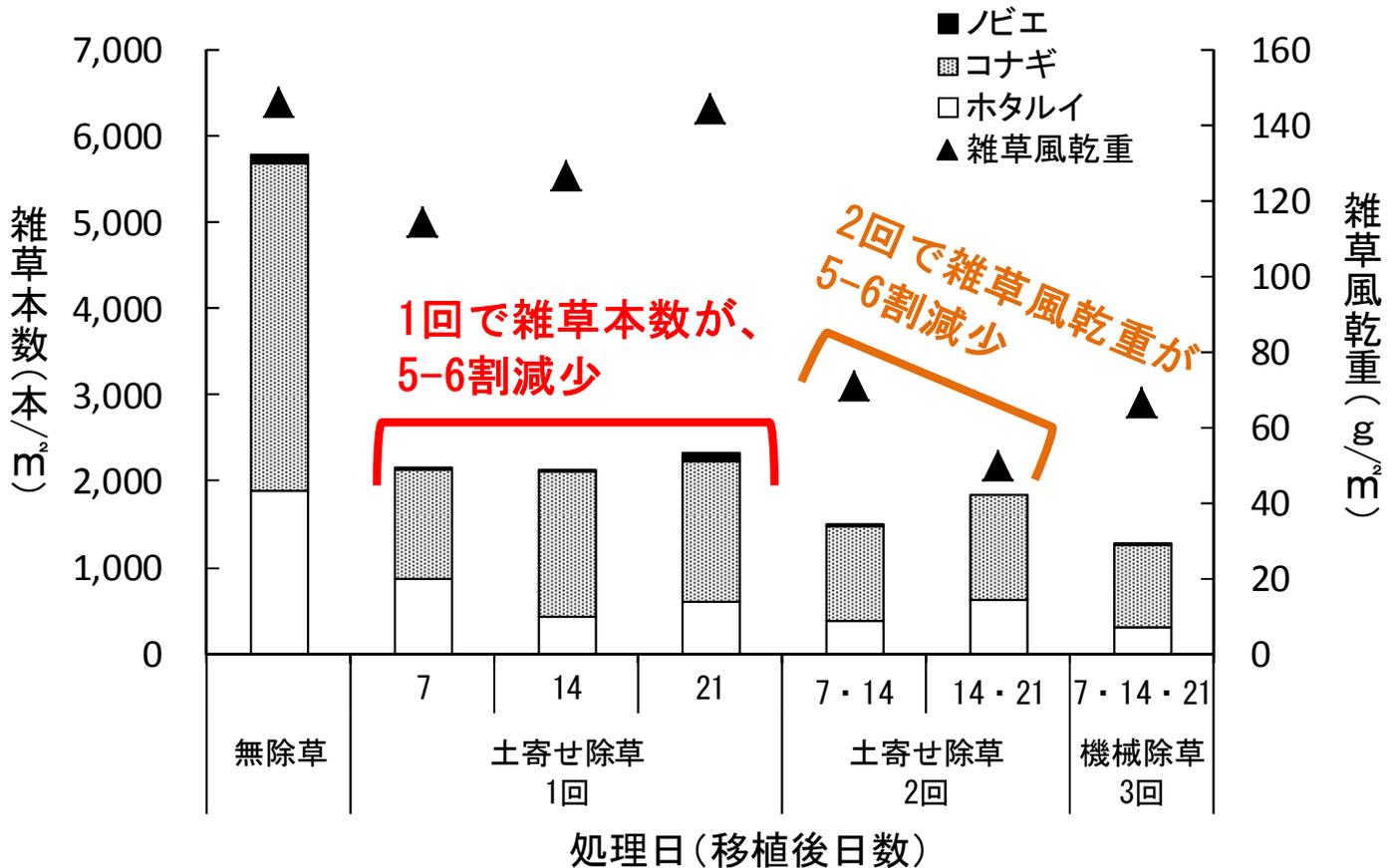
覆土厚が雑草本数に及ぼす影響

* 覆土は7/4(移植25日後)手作業で実施、残草調査は7/29



除草機

本方法を採用した歩行型除草機の施工後の田面形状は、0.1-1.2cmの厚みで株元に覆土されており、覆土の厚みの平均は0.9cmです。本機により、株元への約1cm覆土ができます。



土寄せ除草が雑草量に及ぼす影響

注) 移植日: 6/1、雑草調査: 7/18(移植47日後)、
 注) 土寄せ除草: 歩行型除草機、機械除草: 乗用型K社製多目的田植機

「土寄せ除草法」

土壌攪拌を伴わず、条間の雑草は土中に押し込み、株間の雑草は覆土により雑草を埋め込む除草方法です。

本方法を採用した歩行型除草機による施工は、施工前に落水してから実施します。施工時間は70分/10a程度です。田面の状態によって施工の状態が異なります。土の持ち上げ量が多い場合は稲株が埋没し、少ない場合は株元まで覆土できない場合があります。株元への覆土は、機械の設定により調整可能ですが、田面の高低や土の硬さが大きく影響します。



施工前後の田面の状況 (左: 施工後、右: 施工前)

(問い合わせ先)

鳥取県農業試験場 有機・特別栽培研究室 TEL: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい。